

企画者 : 稚内市歴史・まち研究会／北海道職業能力開発大学校

評価点 : 緑の少ない稚内市街地中心部と宗谷丘陵との融合を図るため、丘陵にはエゾヤマザクラ、市街地にはラベンダー等を植栽することで「香り」をテーマとした散策路で結びつけ、香り・まち歩きを楽しむ空間をつくる。公共用地も含め、個人では活用できない土地を「香りづくり」、「緑化による景観づくり」、「まちの活性化」、そしてそれらを喚起する「人づくり」として複合的に展開することにより、企業や行政の社会的使命と市民のコミュニティガーデンづくりを達成させる。

におい・かおり環境協会賞

企画：稚内市歴史・まち研究会 / 北海道職業能力開発大学校



稚内市中央地区 <彩北の桜路>と<香りとみどりの散策路>

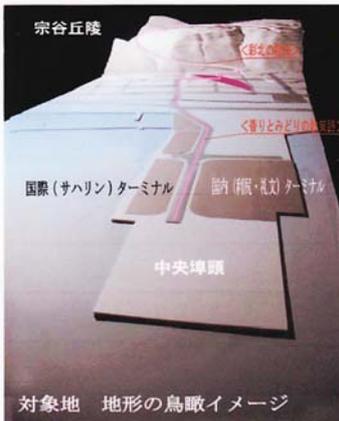
“香りゃんせ通り” コミュニティガーデンづくり

■企画の目的：最北端の稚内市は年間約 600 人の人口減少に加え、中心市街地では近年の大火とその不安（警戒感）、そして高齢化による商店街の空洞化等の課題を抱えます。本企画は中央埠頭の新設フェリーターミナル（国内・国際）から緑少ない中心市街地、そして稚内森林公園への通り（中央埠頭通り-中央 8 条通り-公園環状線（※））などの沿線を対象として、「香りづくり」・「緑化による景観づくり」・「まちの活性化」・「人づくり」を展開し、コミュニティガーデンを形成しようとするものです。私たちはこの活動を市民に広く公開しアピールすることを通してまちの再生に意識をもって頂くと共に、緑化や香りを通して安全にかつ安心感をもって住み続けられるまちづくりにつなげます。また、この活動を通して稚内市の内外からの稚内ファンや参加型ボランティアを受け入れるステージづくりもすすめます。

■まちづくりのテーマ・コンセプト：中央 8 条通り等（※）を「香りゃんせ通り」へ / 最北の国道と鉄道の「起点」を「香り」の起点に。

■香りのテーマ・コンセプト：最北の香りにはラベンダーが最適 / 宗谷丘陵にはエゾ山桜と千鳥桜が彩りを添え / 藤、アルメリア、クレマチスが心躍らせる。

■樹木管理体制：桜守による桜の木カルテ制度の導入 / 1本毎に観察記録を残し / 市民及び企業による植樹及び管理を行います。



対象地 地形の鳥瞰イメージ

①市役所・総合文化センター・市立病院
花壇づくり・花のサイン・香りの樹木



②歴史的建造物の保存・再生利用
塀や塼をツタにより緑化・既存庭を再生
藤棚・案内板の設置や駐車場等の整備
ポーター花壇づくり



⑥副港通り・市営住宅・共同住宅
プランター等による花壇づくりと壁面緑化



⑦工場・倉庫・事務所（公共施設等）・駐車場
ツタで壁面緑化・ポーター花壇づくり



使用する樹木・宿根草・その他の草花

- エゾ山桜 100 本 / 千鳥桜 100 本 / ソメイヨシノ 20 本 / シシツバキ 20 本 / 関山 20 本 / 藤 10 本 / ライラック（紫） 20 本 / ライラック（白） 20 本 / ヒスモモ 10 本 / 花リンゴ 10 本 / ヒツタ 10 本 / ヒメロカリス 100 鉢 / ラベンダー 600 鉢 / アルメリア 100 鉢 / クレマチス 100 鉢

<彩北の桜路>

「公園環状線」は、日本最北端の桜の名所である「稚内森林公園」の隣にあり、彩り豊かな桜の路として中心市街地と人々を結びつける魅力あふれるプロムナード空間となります。

<香りとみどりの散策路>

「中央埠頭通り」-「中央 8 条通り」には散策、抗菌作用やストレスを和らげるラベンダーを配植し、ハープの効能と甘いさわやかな香りが彩北のまちに訪れる人々を癒します。また、埠頭付近のランドスケープは、ツタによって緑化し、視覚的にも安らぎを与えます。

③最北端のアーケード街・商店街
花のウェルカムゲートとラベンダーで来客者を歓迎します



④最北端の国道 40 号：最北の起点 50m にラベンダーシンボルツリー（ポプラ）の周囲を花壇等で整備します



⑤最北端の鉄道
最北の起点 50m の鉄路上にラベンダーの挿し木を植えます



⑧フェリーターミナル（国際・国内離島）・駐車場
ラベンダーの香りで国内外からの旅人の疲れを癒します



“香りゃんせ通り” コミュニティガーデン
現地地図及び香りの樹木・草花配置図